

## 第三国の報道

○1943年5月3日「ロンドン・タイムス」から：イエール軍はイザベリア領ドライゲゼッツ島に対して、空海両面からの上陸作戦を強行した。これには多大な損害が予想されていたが、実際には守備兵力は皆無に等しく、イエール軍は5月7日夕の時点で、ほぼ無傷で同島の50%を制圧した模様。同島が陥るとイザベリア首都カラハリは、ほぼイエール空軍の行動半径内に入る。今後の展開が注目される。

○同4日のUP電から：イエール戦線に投入されていた空母「エンタープライズ」を主核とする米海軍特別派兵艦隊は、4月末に再びイザベリアからの航空攻撃を受けた模様。詳しい損害はまだはっきりしていないが、支援についていたイエール海軍の駆逐艦数隻が撃沈された模様。

○同日、UPの別電から：イエール本土における暴動は、発生後なお一向に衰える様子を見せていない。4月半ばには一般兵らによる反乱が南部第3の規模を持つマハーバ軍港で発生、三日後に逃げ遅れた艦艇多数とともに、反乱軍の勢力下に入るといった事態も発生している。この日午後には南部地方一帯に戒厳令と夜間外出禁止令も発令され、不穏な空気が漂っている。

○同6日「ニューヨーク・タイムス」から：イエールにおける組織的反政府暴徒は、5日正午、レンゲ・ナラ陸軍通信施設と思われる放送局から、短波で「イエール社会主義共和国」の建国を宣言し、一連の暴動は祖国改善のための「革命行為」であると発表した。最高指導者は「サダティ大佐」と名乗る人物である。この人物についてはCIAが調査を開始したが、現在のところまったく不明である。

ソ連は早くもこれを承認する発表を行ったが、他の各国はまだ何らの声明も出していない。この革命には早期からソ連が関与していた可能性が大きい。

○同日の「ワシントンポスト」から：イエール王国政府は、急速に拮据する革命勢力の被害を避けるため、これが鎮圧されるまで暫定的に現首都カピエングの東約300kmのライトスプリングに在る御用邸に政府機関を移した。これに関してホワイトハウスは、まだ何らのコメントも行っていない。

## 栗田姉妹のPBM遍歴

はるな：今回は「ぶりの照り焼き」というサークルです。「変」な名前ですが、活動はまじめで、PBMは「ソニックブーム」「ドリーミングウォーズ」、そして「ウィナアア！」の3つです。

「SB」は参加したらいきなり死にました。こっちはF-106に乗ってたんですが、…ツイてませんね…。「SB」は実は3月号で終わってしまいました。先々月に紹介した「テイクオフ」のシステムを使用（マスター承知の上で）した、近代航空戦PBMだったんだけどね。

「DW」はヒロイック・ファンタジーPBMです。ここはどうやら、職業の明確な区別が無いらしく、ルールを読んだ限りでは、「戦士」が魔法を使うこともできるんです。

「傭兵」という扱いらしいですが。「SB」が終わったんでマスターの財布が軽くなったということも有り、今度はこちらに参加という訳。結果は…これがまた、出た途端に戦死。本当にツイてない。なんだかなア～……

「ウィナアア！」は未だにマスターが設定を把握できていないのと、処理がさっぱりなの二つで、参加していません。…止めちゃったのかもしれない。

連絡先： XXXXXXXXXX

※「A-Strike」で見た、と明記しておいてください。

## 機体放談&amp;内輪話

菊地：そういう訳で今回も、一応無事に処理は終わった訳やね。

岬：そう、処理は。

正宗：後は貴様のワープロだ。GGよりもページあたりの誤植率が高いのは、なんとかな

らんのか。

菊：スコア表記ミスが特にひどいしね。

正・岬：わかってんなら何とかしろっての！

菊：…ところで、こないだ雑誌の広告で、三菱とベンツが提携したニュースの見出し、あれ何だったか覚えてるか？

岬：いつの話だよ、それ？

正：週刊〇売…“零戦とメッサーシュミットが宇宙でランデブー”だろう？

菊：そ。あれどう思うね？

岬：いーじゃん、シャレ効いてて。

正：そうか？私は好かぬが…

菊：実は俺も嫌いなんだ。だって既にメッサーは、飛燕と空で「ランデブー」してるんだぜ？

岬：川崎とMBBね。ヘリだっけ？

菊：そう。

正：メッサーのエンジンをベンツが作っていたから、ああいう見出しになる訳だな。

菊：その通り。

岬：それにしてもまた、何で今更そんなネタを…

菊：いや、前からやろうと思ってたんだけどね。時間がたっちゃって。

正：それで？

菊：うん。あのさ。このところマスコミって、このテの事にエラく過剰反応しないか？他にやる事はいろいろあるだろうにさ。

正：そうだな。いらん事にすぐ飛びつく。

岬：そう言やそうだ。どこでもハン押しみたいに芸能人のスキャンダルばっかだし。

正：そう。

菊：俺思うに、何でそういう事しかやらないんだろうってこと。ああやって山ほど出てる週刊誌の中から、1つか2つ潰すだけで大分紙の消費量減るぜ。…まああんましその事言うくと、俺達のこの会誌の墓穴掘ることになるけど。…人のこた俺も余り言えないけど、定見も無くフラフラと「世論」に付和雷同して、無責任に煽り立てるだけだろ？それで文句が付いたら即「言論・報道の自由」だもの。勝手だよ。

岬：おお凄え。菊地が初めて社会に自分の意見出した。

正：それを揚げ足取りというのだ。

菊：いやいいいけどさ。俺ASじゃ余り言わないけど、一部の私信では結構言ってるんだよ。

正：ほう。…まあそれはともかくとして、だ。連中がなぜあんな事をするのかと言ったら、答えは一つしか無いだろう？

岬：ズバリ、「売れる」からだろう？

菊：でもさあ、何て一かその…何だ、あの「M事件」にせよ、余計なとこまで煽りすぎるんだよ。

岬：で、「一般的」な「小市民」が、一致団結して異口同音に対象を叩きのめすんだろ？逃げ場も無いほどに。…参るよ、うん。

正：岬はそれで、さんざ叩かれたな。

菊：そりゃ無理無いよ。あのご時勢で、ちったあ控えりゃいいものを、これ見よがしにアニメグッズで固めたんだもの。…トルーパーの定期入れ、C翼のカンペンケース、ダーティペアの財布、あーんどF-14と583とシュラトのイラスト入ったルーズリーフ。たまにワイシャツの下に、ラムのTシャツまで着て学校来ただろ。

岬：ああ…「世論」への反抗だったとはいえ、あん時はひどかった。

菊：湿っぽくなったな。こころでやめようか。

岬：うん、そうしよ。

正：今から行けば、宇垣もいるな。

菊：そんなんじゃねーってばよ。

(了)

※取り上げて欲しいテーマ、ご意見等下さい。



縁もいいとこだよなあ。いくら義兄弟の契りを結んだ仲とはいえ、こいつにや参った。  
正宗：悪法も法なり、腐縁もまた縁なり。仕方があるまい。私など、幼稚園を入れて14年の付き合いだ。諦めるしか無いな。(菊：ひでえ！)  
字垣：今回のクイズ、よろしくね♡…それから一つ。「銀河英雄伝説」のビデオ版第1話と、「らんま1/2」の4/14放映(東京)分(→風呂屋の話らしいです：菊)を持ってらっしゃる方、連絡下さい。VHSです。録画し忘れたので…。当方で責任持つてお返ししますので、よろしくお願いします。

## 新入会員歓迎余興クイズ。

字垣：今回のクイズでは、15問以上正解した方に、プレゼントを差し上げます。まあ、私たちがこれまで行ったとこのキーホルダーとか、そういう物ですが。5個しか用意してないので、それ以上正解者が出た場合は抽選になります。あしからず。

なお、( )内は出題者です。

※今回は、「スタッフ」の指定を受けている方をご遠慮ください。

問1：(菊地)私は学校で、何組にいますでしょうか？…アルファベットです。

問2：(菊地)私の入っているクラブは、次のうちどれ？

①ゲーム研究同好会 ②鉄道研究同好会 ③写真同好会 ④歴史部 ⑤模型部

問3：(菊地)平成2年5月中頃現在、私は学校で、次の内どの芸能人のファンだと思われるか。また実際のところはどれか(どちらともは劇ません)。(完答)

①水谷優子 ②WINK ③工藤静香 ④南野陽子 ⑤クレイジー・キャッツ

問4：(菊地)次のうち、私が一番嫌いな物はどれ？

①F-117 ②ヘビメタ ③酔いもの ④ビーチボールのような巨乳

問5：(正宗)私の剣道歴は何年か。

問6：(正宗)私は歌も時々歌う。よく歌うのは次のうちどれか。(註：フリ付きです)

①スーダラ節 ②愛が止まらない ③憧れのハワイ航路

問7：(正宗)菊地が「ウルトラクイズ中毒」になった原因は、実は私である。○か×か。

問8：(岬)おいらは「どらごんくえすと」シリーズをやったことが有るか否か？

問9：(岬)次の内、おいらが今一番好きなアニメキャラはどれか？

①音無 響子(めぞん一刻) ②アニス・ファーム(超音戦士ボーグマン)

③泉 野明(機動警察パトレイバー) ④エルピー・ブル(機動戦士ガンダムZZ)

問10：(岬)このPBMが始まるきっかけになったのは、誰の何というセリフがもとか？  
内容が合っていれば○とする。

問11：(岬)おいらの一番好きな映画は？

問12：(岬)おいらは眼鏡をかけている。○か×か？

問13：(字垣)「字垣麻美」という私の名は本名である。○か×か。「×」であれば、出典は何？

問14：(字垣)私が最近、没頭している映画は何でしょう？…新作じゃありません。

問15：(字垣)植木等の「アイデアル洋傘」のCM、キャッチコピー「何である・アイデアル」に続けて言っていた一言は？(複数有るが、1つだけでも合っていれば○)

問16：(菊地)「……………、あたりマエダのクラッカー」。さて、「……」には何という言葉が入る？(一字一句合っていること)

問17：(正宗)私が最も偉大だと信じて疑わない漫画は、次のうちどれか。

①のらくろ(オリジナル) ②サザエさん ③まんが日本昔話 ④ポパイ

問18：(岬)同じく、おいらの信じる「日本で最も偉大な漫画」は次のうちどれか？

①鳥獣戯画 ②「源氏物語」絵巻 ③昨今のリバイバル・アニメ

問19：(菊地)しつこいですがもう一度、私の信じている最も偉大な漫画は何？

①ピーナッツ ②サザエさん ③まんが日本昔話 ④ポパイ

問20：(字垣)とどめにもう一度、私の信じる最も偉大な漫画は？

①宇宙戦艦ヤマト ②ベルサイユのばら ③カムイ ④となりのトトロ

# 榛名とはるな

本居こじ・作

※この話はフィクションです。あらゆる実在のものにはまったく関係ありません。※  
ACT. 2 The Best Friends.

「真鶴領空侵犯中のF-4、脚を出して指示に従いなさい」

いつも通りF-15で迎撃をかけたはるなが共用周波数で呼び掛けると、グレーの空自防空迷彩のF-4は、気持ち悪いほど素直に脚を降ろした。

「何とまあ」呆れて彼女は呟いた。それが相手にも聞こえたらしい。

「おおい」男の声だった。「呆れてないで連れてってくれよ！」

はるなは一瞬むっ、となった。このまま撃墜したるか、とも思ったが、その数ミクロン手前で彼女は思い止まった。とりあえず彼女の指示に従っている以上、撃墜することは許されないのだ。それに聴取せねばならないこともある。

「…そのまま、こっちについて来なさい」

はるなは機体を左右に揺らして後にすぐ左バンクをうち、降下に入った。

「待ってくれよ、こっちはそんなに身軽じゃないから…」

はるなのF-15より、大分大きな半径で旋回しながら、F-4は何とか後に続いた。はるながエアブレーキを使って減速し、真横につくとF-4も減速した。

「大丈夫だって、撃ったりしないよ」

あまり図太いので、彼女は遂に切れてしまった。

「あつ、んっ、たっ、らっ、ねエツッ！」

怒りに震える声で彼女は言った。

「侵犯機なら、それらしく振る舞う位の事、しなさいよっ！」

「だから図々しくしてるじゃない」

「あ…」

やがて彼らは真鶴の滑走路に、F-4・F-15の順で着陸した。エプロンには弱装ショック弾を装填したM3A1SMGを構えた射的部員が数名待機し、その後方ではその他の生徒たちがヤジ馬の山を築き上げて、今度の男はどんな奴かを、今か今かと待っていた。だから、F-4のキャノピーが開いて、掛けられたハシゴで降りて来た「彼ら」の顔が見えた瞬間ハンガー一帯が、後の彼らの表現を借りれば「絹を裂くようなまっ黄色の歓声」に包まれたのも当然だった。

彼らは目立って美形だったのである。このところ彼女たちを失望させ続けであった、他の男子パイロットとはそれこそ天と地の差があったのだ。F-15の機上でヘルメットを取ったはるなが、啞然となって動かなくなった程である。

彼らの1人は額に緑の帯を巻いていて、そして割にきつい垂れ目だった。もう1人の方は肩の辺りまでクセの強い髪を伸ばしていた。

「結構いい男じゃん」

唐突に、榛名がF-15の機体脇のステップから、コックピットに頭を突っ込んで冷やかした。

「な、何よあんだ」

「姉の顔も忘れるほどの美形、か」榛名は更に冷やかした。「どっちにするの？この果報者めが」

「どーいうこと」

「鉢巻き垂れ目と長髪少年、どちらもヨウシタンレイときた。これを果報と言わずして何という？…棚ボタとも言えるけど」

「あつ、んっ、たっ、ねええっ!!」はるなは切れた。これで2度目だ。「どこの馬の骨とも分からん様なのを、私が相手にするとでも思っとんのか、ワレえ！」

「んー、たしかに」  
「でも両方ともいいなあ…」はるなは彼らを見て舌舐めずりした。「特に髪の長い方…」  
「あ」榛名はステップの上でコケた。「チャッカリしてる…」  
「うん、やっぱりツバつけてこよう」はるなは喜び勇んで機から降りた。「こんな時でもなけりゃ、BFの1人もできやしない」

「あのう…」精一杯の「営業用」スマイルで、はるなは彼らに話しかけた。  
途端にヤジ馬の群れからブーイングが湧き起こる。クルリとそちらを見据えると、彼女は怒鳴りつけた。  
「やっかましい！こん人たちや、あたしがつれて来たんだよ！だからあたしの物なの！わあつたら、さっさとお散りっ！」  
かなり無茶な論法であったが、既に彼女より年配の者は「侵犯者」たちが年下の様なのであきらめて退散し、年下の者たちも先輩の言うことにはさからえず、そして残った者たちもそれに続くように去って行ってしまった。

機体はF-4Eであった。パイロットはバンダナの方が赤城広義、ロングヘアの方が加賀実と言った。すぐにヒロ、ミノルと呼び、自分のことをハルと呼ばせるあたり、“チャッカリしてる”どころではない。

さて、その後しばらくの間の尋問で以下のことがわかった。まず、侵犯の意図は無かったこと。航法系の回路が故障していたこと。そして女子部からそう遠くはない男子部の生徒だったこと、である。

男子部から補修用の部品が届くまでの間に、はるなと赤城たちは再び話す機会を持った。「また会いたいな」どこが気に入ってか、赤城ははるなとすっかり意気投合していた。「寮の名前と部屋番教えてよ。今度手紙でも出すから」  
「そりゃあ、いい」

そそくさと自分の寮の名と部屋番を赤城の飛行日誌に書き込むはるなを少し遠くから見、榛名は歯がみした。

「ああ何て事！こどもあろうに妹のはるなの方が先に“ぼおいふれんど”作るなんて！しかも複数形っ!!」

そこへ現われたのが中学2年の生徒である。髪は異様に長いポニーテイル。背ははるなより少し低く、目は丸かった。

「あのう」彼女は耳の端まで紅くなって、ぎこちない手付きで大学ノートを出した。「これ、お願いします！」

無理にそれを榛名に押しつけると、その女の子はさっさと走り去って行ってしまった。「おーい…」

茫然自失となって言っではみたものの、聞こえる由も無い。悪い予感に駆られつつも表紙を開いてみて、榛名はぎょっ、となった。ノートには、「永野 伊勢」という、彼女の名前と覚しき物が表紙の裏のところに緑のサインペンで書かれ、挨拶文らしき物が第1ページ目に有ったのである。内容は、交換日記としか取れないものだった。

「おいおいおいおい…」そのノートを筒にしながら、榛名は呻いた。「冗談じゃない…」  
「何が冗談じゃないのよ」いつの間にかはるながいた。「どうしたの、そのノート？」  
「何でもない」榛名は慌ててノートを背に隠した。「良かったわね。男友達が出て」「あ！嫉いでる！」はるなははやした。「言ってくれれば赤城君分けたげたのに」  
「勝手に言っとれ！」

それきり榛名はショックで寮の自室に寝込んでしまい、はるなとその日、顔を合わせる事は無かった。

——翌日。榛名の居る教室に、永野がやって来た。昼休みの事だ。

「ねエ、あのコ知り合い？」前の席の南雲が振り返って榛名に尋ねた。「さっきからこっちの方ずっと見てるみたいだけど」

それで榛名は永野に気付いた。「——げ」

「ね、知り合い？」

「…づ…ん」

うなずきながらゆっくり立ち上がると、彼女は重い足取りを永野の方に運んだ。「先輩…」永野の目には涙が有った。

事は突然起きた。

わッ、と破裂したように涙を溢れさせ、榛名に抱きついた永野が泣きじゃくり出したのだ。「先輩ひどい…！日記どうしたんですか？…心配しちゃったじゃないですか!!」

早くも廊下に人垣ができる。注がれる周囲の視線。

「あ〜…」榛名の視線と両手は宙をさま迷った。「あの、ねエ…」

「よっ！ご兩人♪！」

聞き慣れた声でヤジが飛び、周囲の笑いを誘った。声のした所には、果たしてはるなが居た。

「は、る、なあ…」恨めしげに榛名がねめつけると、彼女はコソコソと逃げ出した。榛名は舌打ちした。…にしても対策が思いつかない。人垣は増える一方だ。

「…と、とにかくいらっしやい」

上ずる声で、榛名は引きずるようにし、永野を校舎裏に連れて行った。

.....

「だから、昨日は宿題が多くて、そっちまで手が回らなかったのよ」

ショックで寝込んでいたからとも言えず、榛名は苦し紛れの逃げを打ってみた。

「じゃ、今日は書いてもらえますか？」

永野はようやく泣き止むと、まっ赤に泣き腫らした目で榛名の目を見た。

「…今日も宿題が多そうねえ…」

「じゃ明後日は？」

一抹の期待を持って榛名は更に逃げを打ったのだが、見事にその期待は崩壊したことを、榛名は知った。

「…何とかするわ」

「あはっ♪」

永野は微笑むと、いきなり榛名の口にキスした。ほんのちょっとしたものだっただが、それは榛名の脳細胞の活動を完全にマヒさせるのには、充分すぎるほどの威力があった。

「……………!!??」

「忘れちゃイヤですよ！」

満顔の笑みを浮かべて去って行く永野を見送りながら、榛名は力を失ってその場にへたり込んでしまった。…予鈴が鳴る。

(ACT. 2 了)



←永野だ。  
こゝは菊地の趣味の  
象徴。ネタはわかるな？  
S-2に乗ってるらしい。

→こゝは南雲。  
榛名の副官だ。



